

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 小森江西 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回っており、読むことに関して理解する力が付いてきていることがわかった。どの設問においても、無解答がなく、粘り強く問題に対して取り組むことができていた。
	よくできた問題	目的に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くことについて全国平均と比較し正答率が高かった。
	努力が必要な問題	古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読むことについて全国平均と比較し、正答率がやや低かった。
国語B	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回っており、話すこと、聞くことについて、理解が深まっていることが分かった。記述の設問に関しては、正答率が全国平均を下回っており、題意にあった解答の方法や、自分の考えをまとめることについての取り組みが必要がある。
	よくできた問題	目的や意図に応じ、引用して書く設問について、全国平均と比較しを15ポイント以上上回った。
	努力が必要な問題	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる設問に対し、全国平均と比較し、正答率がやや低かった。
算数A	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回っており、図形領域において、理解する力が付いてきていることが分かった。四則演算について、簡単な間違いをする傾向があるので、落ち着いて確実に問題を解く必要があることが分かったので、見直し等確実にする必要がある。
	よくできた問題	加法と除法の混合した整数と小数の計算をする設問に対し、全国平均を25ポイント上回った。
	努力が必要な問題	商を分数で表す設問が全国平均と同程度であった。
算数B	全体的な傾向や特徴など	得点率は全国平均とほぼ同程度であり、学習指導要領の領域である「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」においていずれも、全国平均と同程度であった。記述式の問題において、無解答率が高い傾向がある。
	よくできた問題	料金の差を求めるために、示された資料から、必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できるの設問に対し、全国平均と比較し正答率が15ポイント高かった。
	努力が必要な問題	問題に示された二つの数量の関係を一般化してとらえ、その決まりを記述できるの設問に対し、全国平均と比較し正答率がやや低かった。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概

質問紙調査の結果分析
<p>○「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」の肯定的解答は83.3%であった。日々の学習の中で友達どうし説明したり、考えたことを書いたりする活動に意図的に取り組んできた成果が出つつある。しかし、苦手意識を持っている児童もいることから、今後も児童の実態に合わせ、言葉で説明する活動や、書く活動を取り入れていく必要がある。</p> <p>○「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的解答は58.3%であった。宿題等の課題の取り組みについては定着しつつあるものの、自分で計画を立てて勉強している児童はまだ少ない。自分で計画を立て取り組むための手立て等が必要である。</p> <p>○「自分には、よいところがあると思いますか」の肯定的解答は66.7%であった。これは、児童が良いところがあっても、それを自分自身のことを肯定的に捉えることができていない児童が多いことを意味している。学校では全教育活動において、児童の自己肯定感を高める評価を行い、道徳の授業においても自分の長さに目を向けることができるように授業づくりを進めていく必要がある。</p> <p>○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」の肯定的回答は79.1%であった。経年比較をすると、肯定的な回答の割合は増えつつある。地域に目を向けた、総合的な学習の取り組みを計画的、継続的に取り組んでいる成果が出つつある。社会で起こっている問題について新聞記事を取り入れる等さらに目を向けさせる必要がある。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<p>○学習時間における「話し合う活動」と「書く活動」の時間の確保(全校)</p> <p>○自己肯定感を高めるための縦割り活動の見直しを含め児童相互が認め合えるような活動を行う。2学期は縦割り活動を中心にあいさつ運動を行う。継続してびかびかボランティア活動や「笑顔のなる木」の取り組みを行う。さらには、道徳科等での自己肯定感を高めるための授業を計画的に実施する。(全校)</p>

② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>○月1回発行している、小西っ子生活頑張りカードを用いて、学校と家庭での励ましを継続していく。(全校)</p> <p>○学校通信、学級通信等において、家庭学習や生活習慣等の啓発を行う。(全校)(学級)</p>
--